

第6学年1組 社会科実践事例

日時：平成23年7月5日（火）第5校時

場所：6年1組 教室

児童数：男子15名 女子13名 計28名

指導者：生魚 進二

1. 単元名 今に伝わる室町文化

～新しい文化を生み出す～

2. 指導によせて

(1) 児童の実態

はじめて学ぶ歴史の学習については、教科書や資料集を興味を持って見る姿、見つけたことや感じたことを素直につぶやく姿が多く見られるが、歴史学習の楽しさやおもしろさに気づくことができず、苦手と感じている子もいる。

歴史を学ぶにあたり、その時代の社会的背景を理解し、人々の思いや願いを大切にしながら、学習を進めてきた。また、拡大写真・具体物を掲示したり、校外学習で奈良方面（東大寺・大仏・大極殿・歴史資料館）の体験活動を取り入れたりすることにより、当時の人々の思いに迫れるように工夫し、取り組んできた。

6年生になって、四月当初に比べ、男女間の仲は良くなり元気に明るく過ごしている子が多くなった。また、最高学年として、「6年生として下級生の見本になるようにしたい」「学級が楽しく過ごせるように仲よくしていきたい」と一人ひとりが自覚を持って取り組む姿勢が増えてきた。しかし、集団としての行動になると、自分の考えは持っているものの、周りに流されてまとまりのある行動がとれず学級全体としての規範意識が低くなってしまうこともある。

学習時間の様子は、与えられた課題に取り組む子が多いが、自分の意見や感想を出し合う場になると、自ら挙手して発表しようとする子が少なくなり、お互いに意見を出し合ったり、考えを深めたりすることもほとんどなく、受け身的な学習になってしまう。

今回の授業を通して、日頃の児童の弱さである正しいことを主張できる強さ、お互いの存在を認め・高め合う仲間意識、難しいことは避け容易なことに流れやすい心を見つめ直し、今後に生かしていきたい。また、受け身的な学習から自発的な学習にするために、自分の考えに自信が持てるよう発表しやすい場を多く設け、意見交換をしていく。その中で、お互いの意見を聞きながら、自分の考えを更に深め自信を持って言動する児童を育てていきたい。

(2) 小単元について

室町時代は、民衆が文化や産業等さまざまな場面でその担い手として登場してくる。現在も私たちの生活にその文化（祭り・盆踊り・陶磁器・生け花・茶の湯・書院造・水墨画・能・狂言・庭園）は各方面に影響を及ぼし、現在の日本文化の源流となった。和食や和室での生活など、わたしたちは今も室町時代の生活を続けていると言えるのではないかと思う。また、産業も盛んになり、職人が現れ、特産物が生まれ、農民たちは生産力を向上させた。そして、民衆は、自分たちの生活を守るために、相互間の結びつきを強めていった。このように、武士だけでなく、民衆による文化が作りだされた時代であることを学習する。

本単元では、さまざまな場面で活躍する民衆の姿をとらえ、この時代に育まれた文化について考えさせたい。建築様式や日本庭園などは、今日の自分たちの生活の中にも見られる物で、身近に感じて学習できることと思われる。美しさや芸術性の高さにふれさせるとともに、その文化の多くが被差別の立場にあった人々が作り上げたものであるということをおさえておきたい。特に「銀閣寺の庭園」作りに携わった「又四郎」のつぶやきと相国寺の僧侶「周麟」の日記を資料として扱い、差別をされることの悲しさを共感させるだけでなく、差別をする心の醜さを感じ取らせ、子どもたち自身が自分たちの生き方に気づいたり、見つめ直したりすることにもつなげていきたい。

そして、「又四郎」という人物を取り上げて考えることで、社会にある差別に対する悲しみや憤りに共感させることができると考える。

(3) 指導について

本単元の導入に当たっては、室町時代の文化の資料をもとに学習させるだけでなく、差別をされていた人々の生活やそうした人々を周囲の人々はどうのようまなざしで見ているのかを正しく理解させておかななくてはならない。この時代は、支配者がつくった身分の中での差別ではなく、当時の人々の内にあった価値観や生活の意識、あるいは生活の規範ともいえるものが、こうした差別をつくったの

だといわれている。子どもたちには、死に対する恐れや自然に対する畏怖などの感情があったこと、それに携わる人々に対しても差別が存在したことを押さえておきたい。

子どもたちの日常の生活の中にも自分たちと違うことで仲間はずれをしてしまうこと、みんなと違うことをすることに抵抗をもつこと等があるので、自分たちの生活にも目を向けられることになることを考える。

そのことをふまえた上で、「又四郎」と「周麟」のやりとり（日記より）を学習すれば、差別に対しての不合理性に気づき、「又四郎」のたくましい生き方、「周麟」の苦悩を深く学習できるものと考えられる。そして子どもたちの経験に重ね合わせながら、自分たちの生き方・考え方を見つめ直し、次に生かされる一つの気づきとしていきたい。

（４）部落差別問題学習にかかわって

部落差別問題学習として、初めてのポイントを今回学習する。初めて「差別されていた」という史実を取り上げることになるので、この言葉は慎重に取り扱いたい。言葉だけが先走りするのではなく、正しい理解と心情をしっかり押さえたいと考えている。

部落史を学習するとき大切にしたいこととして、まずは、正しい理解である。人々の穢れ意識・差別意識がどのように表面化したのか、被差別部落の人々がどのような差別を受けてきたのか、どれぐらいの苦しみや憤りを感じてきたのか、そしてどんな思いで団結し、立ち上がり部落解放を勝ち取ろうとしてきたのかということをも正しく理解することにあると考える。

その上で、先人たちが活動していった恩恵のもとに自分たちの生活があることを常に感じとらせていきたい。差別を受け、立ち上がり、弾圧され、しかし団結していく。

そんな先人たちの努力・行動があったからこそ、今の自分たちがいるんだと。そして何より、自分たちの今の生活に重ね合わせていきたい。差別をされていた史実を学習し、当時の人の思い・憤りを考えた後に、自分たちの生活に同じようなことはないかと自分自身を振り返らせたい。

3, 4つのポイント学習について

ポイント① 伝統文化を生み出した人々

単元名	学習のねらい	資料等
1. 縄文のむらから 古墳のくにへ		
2. 天皇中心の国づくり		
3. 武士の世の中へ		
4. 今に伝わる室町文化 ○新しい文化を生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ・民衆が団結を深めていった様子について知る。 ・今も生活の中に残っている民衆文化が、差別をされていた人々の中から発展したことを知る。 ・社会を支えた民衆の生きる姿に共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銀閣の庭園と足利義政（又四郎のつぶやき） ・能

ポイント② 身分差別と闘った人々

単元名	学習のねらい	資料等
5. 戦国の世から江戸の世へ ○検地と刀狩り	<ul style="list-style-type: none"> ・検地と刀狩りによって武士と百姓・町人という身分が作られたことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検地 ・刀狩り
◎人々のくらしと身分	<ul style="list-style-type: none"> ・差別の中でもたくましく生きていく人々の姿について知る。 ・武士社会を維持するためにつくられた身分制度について理解し、その課題に気づく。 ・厳しい差別を受けながらも、さまざまな職業に就き、社会を根底から支え、伝統的な文化を伝えていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸図屏風 ・身分ごとの人口割合 ・百姓の生活の心得（天領を中心に 出された心得 地方分権）
6. 江戸の文化と新しい学問 ◎医学を支えた人々	<ul style="list-style-type: none"> ・身分制度のもとで厳しい差別を受けながらも、さまざまな職業に就き、社会を根底から支え、伝統的な文化を伝えていることを理解し、差別されてきた人々のたくましさ、人間性の豊かさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かいぼうの様子 ・「解体新書」 ・「蘭学事始」

◎新しい時代への動き	<ul style="list-style-type: none"> ・揺らいできた幕藩体制を立て直すために、幕府や藩が身分制度を強化していったことを理解する。 ・厳しい差別の中で団結し、立ち上がった人々の怒りや人間としての尊厳維持の願いを共感的にとらえる。 	・「洪染一揆」(天保三上一揆)
------------	---	-----------------

ポイント③ 差別をなくすために闘った人々

単元名	学習のねらい	資料等
7. 明治の国づくりを進めた人々 ◎本当の平等を求めて	<ul style="list-style-type: none"> ・「解放令」により制度としての身分制度がなくなったことを確認するとともに、日常生活での差別や実質的な差別意識が残された課題について気づく。 	・「解放令」
8. 世界に歩み出した日本 ◎光り輝く新しい世の中に	<ul style="list-style-type: none"> ・共に差別をなくそうとした人々がいたことを知る。 ・民主主義の意識の高まりの中で、「解放令」以降も差別をなくす運動に立ち上がり、被差別の立場の人々と共に普通選挙権獲得に手をつなぎあっていくことを確認する。 ・「水平社宣言」に込められた差別をなくすために尊敬し合うことの大切さについて考える。 	・「水平社」(「水平社宣言」(荊冠旗))

ポイント④ 人権の世紀をつくるために

単元名	学習のねらい	資料等
9. 長く続いた戦争と暮らし		
10. 新しい日本、平和な日本へ ◎民主主義による国を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本国憲法」が定められ、新憲法の三つの決まりである「国民権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の重要性について考える。 ・基本的人権は侵すことのできない大切な権利であるが、今日なお人権に関する様々な問題があることを知り、差別をなくし、人権が保障された社会をつくるために一人ひとりができることについて考える。 	・「日本国憲法」(教科書無償闘争)

4. 単元の目標

- ・今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれていることがわかる。
- ・差別されていた人々が、社会や文化を支えていたことに、室町時代の文化を調べていく中で気づく。
- ・社会や文化を支え、懸命に生きた人々の姿に共感する。

5. 指導計画 全4時間 本時第3時

主 題	ね ら い
武士が新しい文化を生み出す	茶の湯、生け花、書院造、能、庭園などの文化が今の生活にも息づいている素晴らしいものであることに気づき、それらを生み出した人たちの偉大さを感じることができる。
差別された人々の果たした役割	差別をされていた人々の生活について知ることができる。また、こうした人々が担った仕事について知ることができる。
「又四郎」と「周麟」の心 <u>(本時)</u>	銀閣寺の庭園造りにたずさわった「又四郎」と「周麟」のやりとりをもとに、差別された人の思いと差別をしていた人の思いに気づき、自分の生活を振り返ることができる。
雪舟がすみ絵を完成させる	雪舟の描いた水墨画を見て、その特徴に気づくことができる。

- 6, 本時の目標
- ・被差別の立場の人々が、今も私たちの生活に生きている文化や芸術を作り上げたことを理解する。
 - ・差別の不合理性に気づき、人間らしく生きようとする人々の生き方に共感することができる。

7, 本時の展開

学習活動	予想される児童の反応	教師の支援
<p>1, 銀閣寺の庭園のすばらしさを知る。 (銀閣寺の庭のビデオ・写真を見る)</p>	<p>〈銀閣の庭園を見てみましょう。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が多い。・木や石がある。 ・和風という感じがする。 ・池がある。 <p>〈どのような人がこの庭園を造ったのでしょうか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将軍や武士 ・天皇や貴族 ・お坊さん・庭づくりの専門家 ・身分の上で差別されていた人たち 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術性や技術の高さについては児童には難しいと思うので、世界文化遺産に指定されていることや多くの見学者が訪れること、現代まで長く保存されていることなどを伝え、すばらしさを感じさせる。
<p>2, 庭園を造った又四郎について知る。 (又四郎の人間像)</p>	<p>〈この資料から、どんなことが分かるでしょう。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭造りの名人だった。 ・将軍に気に入られていた。 ・三代も続いて庭造り。 ・みんなから認められていた。 ・欲深くない人。 ・生き物を大切にしている。 ・人々から差別されていた。 ・差別され悲しい思いをしていた。 ・すばらしい人なのにどうして差別されたんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庭園を造った人たちのことについて説明をする。 ・造園技術のすばらしさを説明する。
<p>3, 又四郎の言葉の意味を考える。 ① <u>又四郎の悲しみを考える。</u></p>	<p>〈又四郎が感じている悲しみとは何でしょう。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人とも仲良くしたいのに、差別されるのは悲しい。 ・正しく生きているのに、世の中の人々が差別するのは腹が立つ。 ・悪いことをすると決めつけて見ないでほしい。 ・差別する人こそ心の悲しい人だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・又四郎が社会に対して憤っていることをとらえさせ、悲しみに共感させたい。
<p>② <u>周麟(僧)の「又四郎こそ、人間である。」の言葉の意味を考える。</u></p>	<p>〈周麟(僧)は、どうして「又四郎こそ、人間である。」と思ったのだろうか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての命を大切にしている。 ・欲を持たないで、真面目に生きている。 ・差別する人を憎まず、心の優しい人だ。 ・差別する人こそ間違っている。差別が無くなってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・又四郎への思いや周麟への思いを書かせる。 ・又四郎の生活ぶりや仕事に対する真剣さにふれ、又四郎の生き方に感銘を受けた僧の思いに気づけるようにする。
<p>4, 学習のふり返しをする。</p>	<p>〈感じたことやこれからの生活に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・差別の不合理性に気づかせ、今

生かしたいことを書きましょう。) 後の学習につなげていく。

・室町文化を支えた差別された人々は、仲間と協力して造ったんだろうな。

・又四郎の生き物に対して優しい気持ちを持ってすばらしいな。

・お坊さんは、又四郎の生き方に感動したと思う。

参考文献 外川正明『部落史に学ぶ1』解放出版社 藤田孝志『中世 差別の社会的成立』

8, 資料

9, 考察



善阿弥、彼の子小四郎、善阿弥の孫又四郎と先祖代々に伝わる庭造りの名人として、八代将軍足利義政からも、技術の高さを評価されていることを通して、自分たちの仕事に誇りを持ち、全うする姿勢を取り上げた。また、身近にいる僧との出会いから、又四郎と僧との会話に入り込み、又四郎の生き方・理不尽に築き上げられた社会的な立場への不理解・怒り・惨めさと本心に迫り、そこから理不尽な差別意識・社会構想に考え、正しい認識にもとづいての生き方をこれからの自分の生活の中に生かせるような学習展開を考えた。

まず、本時の資料から、差別されていた人々は、今の暮らしに伝わる室町文化を支え発展させたこと知らせるために、銀閣寺の庭園のビデオ・写真を資料として提示した。子どもから「庭がきれい」「どうやって造ったのか」という声があった。子どもたちは、少なからず庭園を造った人への興味・関心を持った。ただ、映像だけでは視覚的理解であったので、映像・写真の掲示を元に説明を加え、質問をおり交ぜながら内容に迫っていけば、もっと深く考えさせることができた。

映像・写真からは、高い技術に共感することで終わってしまったが、そこから、前時の学習を振り返り、職業により差別されていた又四郎もその一人であることは確認できた。差別されている人と差別している人との人間関係に迫るきっかけをつくることができた。



次に、又四郎の「人々から差別される立場にあることを心から悲しく思う」という言葉に注目させて、何が悲しかったのか考えさせた。前時までに差別されるきっかけや、差別されていた人々の役割について話していたので、「自分が差別されていることが悲しい」という多数の意見が出た。また、何人かの子からは、自分の生き方・仕事と一生懸命に生きている人を差別する怒りの意見もあつたり、自分に置き換えて考えている子もいた。その社会が取り巻く当時の差別の不合理性にまでふれて考えている子はいなかった。子どもたち一人ひとりにもっと

差別されていた人の悲しみに深く迫るために、又四郎の人柄・生き方・生き物を殺さないということなど、身近に考えられることができたのであれば、更に差別への憤りやその当時の差別の不合理性に迫ることができたと感じた。そうしていたら、「同じ人間なのに差別されているから」「差別されている人たちがいること」などという意見により、「差別そのものの存在が悲しい」ということを全体でとらえることができたと思う。

差別されていた立場である又四郎が言った言葉であるからこそ、差別される苦しみ差別への憤りなど様々な思いに気づくことにつながった。

また、僧の「又四郎こそ人間である」という言葉から又四郎の生き方に共感させ、自分に置き換えさせたいと考えた。この言葉は、人間像を迫りやすく、また、又四郎の生き方に共感させるために効果的であった。又四郎の仕事に対する真剣さや生き方にふれることができた。もっと、その人間像の考えに対して理由を求めることをしていれば、差別の不合理性について憤り・絶対に許せない・やってはいけないことを学び、我が身としての振る舞いへと発展できたと予想される。

学習の最後には、今生きている自分の日頃の生活に置き換えて書かせた。子どもたちのまとめからは、「差別されている立場でありながらも前向きに生き抜いた姿を見習うこと」「又四郎のように自分のやるべきことを全うしたい」「人間らしい人とは、一生懸命に生きる又四郎である」「こんな人をどうして差別するのか。差別への憤りを感じ、差別の不合理性をなくしたい」と共感することができたことは大きな成果であった。しかし、僧を差別する立場としてとらえ、その僧が、差別に疑問を投げかけ解決していこうとする行動力までは突きつめることはできなかった。

今後、自分たちの生活の中に問題が出てきた場合、ただ、表面的なことだけで、認識し判断するのではなく、正しい認識に立って、物事の解決をしていくことを伝えていきたい。また、今後も、差別は絶対に許さないという生き方をしていくために、モデルとなる人物を取り上げ、その生き方に共感することを通して、正しい認識から仲間を大切にする意識で生活を送れるようにしていきたい。